

第3室 芥川龍之介

【大川の水（誕生・少年期）】

伯母のふきが使った長唄稽古本
「牛乳の用法」パンフレット 1904（明治37）年11月 耕牧舎
芥川龍之介「義仲論」原稿

【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉
芥川龍之介「鼻」草稿「新思潮」1916（大正5）年2月掲載〈複製〉
「新思潮」創刊号 1916（大正5）年2月
芥川龍之介「葬儀の記」原稿〈複製〉
芥川龍之介「秋」草稿
芥川龍之介『傀儡師』1919（大正8）年1月 新潮社
芥川龍之介『点心』1922（大正11）年5月 金星堂
芥川龍之介『支那遊記』1925（大正14）年11月 改造社

【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

芥川龍之介筆「澄江堂十首」卷子〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
『近代日本文藝読本』全5巻 1925（大正14）年11月 興文社
芥川龍之介『湖南の扇』1927（昭和2）年6月 文芸春秋社出版部
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿「改造」1927（昭和2）年4月掲載〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿「改造」1927（昭和2）年10月掲載〈複製〉

【書画の魅力】

芥川龍之介 谷崎潤一郎宛書簡 1922（大正11）年（推定）6月4日
「秋ふくる昼ほのぼのと朝顔の花ひらきたりなよ竹のうらに」軸装
「野茨にからまる萩のさかりかな」色紙
「初午の祠ともりぬあめの中」短冊
「抱虚懐欲歩古今」一枚物
素描 亀図
水彩画 男性像
『黄雀風』表紙校正刷り

【芥川の俳句】

「牛に積む御料楡や梅の花」ほか俳句草稿
「日もすがら海鳴る音や麦の秋」ほか俳句草稿
「Impromptu」俳句草稿
「朝顔や鉢に余れる夢の丈」俳句草稿
「ゆれ落つる月の赤さよ槍が嶽」他俳句草稿
「たばこすふ煙の垂るる夜長かな」他俳句草稿
「はつ時雨ありとも見えぬ飛行機や」俳句草稿
「町かどや入り日片照るひと茂り」俳句草稿
「生け垣に山茶花まじる片かげり」俳句草稿
「ホトトギス」1918（大正7）年9月
「ホトトギス」1919（大正8）年3月
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月 新潮社
「雲母」1927（昭和2）年9月号
『澄江堂句集』1927（昭和2）年12月 文芸春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」軸装〈複製〉
芥川龍之介「水虎晚帰之図」額装〈複製〉
芥川龍之介 山本喜誉司宛書簡 1910（明治43）年10月14日〈複製〉
芥川龍之介 山梨夏期大学講演メモ〈複製〉
堀内柳南「コスモスを揺して月に来る人」軸装

【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
芥川龍之介『羅生門』1917（大正6）年5月 阿蘭陀書房〈復刻〉
芥川龍之介『鼻』1918（大正7）年7月 春陽堂〈復刻〉

【友への手紙】

芥川龍之介 井川恭宛書簡 1914（大正3）年1月21日〈複製〉
原本 大阪市立大学学術情報総合センター恒藤記念室蔵

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石 久米正雄・芥川龍之介宛書簡 1918（大正7）年8月21日〈複製〉

【芥川と児童文学】

芥川龍之介 鈴木三重吉書簡 1919（大正8）年11月9日〈複製〉
「赤い鳥」創刊号 1918（大正7）年7月
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿〈複製〉
芥川龍之介「杜子春」原稿〈複製〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和3）年6月 改造社〈復刻〉

芥川龍之介作 楽焼皿「小心火盗」
『芥川龍之介全集』（1934年岩波書店）予約募集の凸版
愛用のペーパーナイフ
自筆俳句入扇面「明星のちろりにひびけほととぎす」

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室

【境川村小黑坂】

パネル 山梨県内の地図
飯田蛇笏・飯田龍太使用の硯
飯田家家相図 1899（明治32）年

【飯田蛇笏】

若山牧水 飯田蛇笏書簡 1911（明治44）年6月1日
飯田蛇笏「夏山や又大川にめぐりあふ」軸装
飯田蛇笏「虹に啼き雲にうつろひ夏雲雀」軸装
飯田蛇笏「山ふかき飛瀑をのぼる大揚羽」色紙
飯田蛇笏「夏の哀感」句稿
飯田蛇笏「陽を擁くはアトサヌプリの梅雨の雲」短冊
前田普羅「荒梅雨や山家の煙這ひまはる」短冊
飯田蛇笏「さわやかに日のさしそむる山路哉」軸装
飯田蛇笏「秋しばし寂日輪をこずゑ哉」軸装
飯田蛇笏「はつ栗に山土の香もすこしほど」短冊
飯田蛇笏「山吹の落葉し尽す露の川」色紙
飯田蛇笏「深山の日のたはむるゝ秋の空」短冊

飯田蛇笏「寒たまごふところにして閑話哉」軸装
 飯田蛇笏「ふゆといふ人生の椅子深山住」軸装
 飯田蛇笏「ゆきに辞す人に手燭をこゝろより」軸装
 飯田蛇笏「冬晴や杭の禽を射ておとす」短冊
 飯田蛇笏「爐をひらく火の冷々と燃えにけり」短冊
 飯田蛇笏「旧山河こだまをかへしはつ鼓」色紙
 飯田蛇笏「雪山の暮るゝゆとりに鳴る瀬かな」短冊
 写真パネル 早稲田大学時代の蛇笏
 「ホトトギス」第12巻第1号 1908（明治41）年10月 俳諧散心号〈複製〉
 「国民新聞」切り抜き
 飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」句額 1914（大正3）年〈複製〉原本 個人蔵
 「ホトトギス」1914（大正3）年11月「芋の露」巻頭号〈パネル〉
 「ホトトギス」雑詠欄投稿句稿〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
 「キララ」創刊号 1915（大正4）年5月〈複製〉原本 東京都近代文学博物館蔵
 「キララ」第2号 1915（大正4）年6月〈複製〉原本 東京都近代文学博物館蔵
 「キララ」第3巻第11号 1917（大正6）年11月〈複製〉
 「雲母」10周年記念号〈複製〉1924（大正13）年3月
 飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛭かな」額装〈複製〉1927（昭和2）年
 写真パネル 家族と庭前で 1917（大正6）年撮影
 飯田蛇笏『山廬集』1932（昭和7）年12月 雲母社 装幀 川端龍子
 飯田蛇笏『山廬集』序文原稿〈複製〉
 飯田蛇笏『穢土寂光』1936（昭和11）年12月 野田書房
 飯田蛇笏『靈芝』1937（昭和12）年6月 改造社
 飯田蛇笏『山響集』1940（昭和15）年10月 河出書房
 飯田蛇笏『白嶽』1943（昭和18）年2月 起山房 装幀 露谷虹兒
 飯田蛇笏『春蘭』1947（昭和22）年7月 改造社 装幀 木村莊八
 飯田蛇笏『心像』1947（昭和22）年11月 靖文社
 飯田蛇笏「心像」句稿 1943（昭和18）年〈複製〉
 写真パネル 飯田龍太撮影 炉辺の蛇笏 1956（昭和31）年1月撮影
 「雲母」復刊号 1946（昭和21）年3月
 句集『雪峽』句稿〈複製〉
 飯田蛇笏『雪峽』1951（昭和26）年12月 創元社
 飯田蛇笏「おく霜を照る日静かに忘れけり」軸装 1953（昭和28）年〈複製〉原本 個人蔵
 飯田蛇笏「御魂祭折から月の上るなり」短冊 1961（昭和36）年〈複製〉原本 個人蔵
 飯田蛇笏『家郷の霧』1956（昭和31）年11月 角川書店
 写真パネル 1958（昭和33）年4月8日、門前を歩く蛇笏と龍太・小林富司夫 撮影 若林賢明
 「雲母」1962（昭和37）年10月 蛇笏遺句「山月」掲載
 「雲母」1962（昭和37）年11月号 龍太「山廬永別」掲載
 「雲母」飯田蛇笏特集号 1963（昭和38）年3・4月
 飯田蛇笏『椿花集』1966（昭和41）年5月 角川書店
 高浜虚子「山廬」扁額〈複製〉
 遺品 落款印・印譜
 村上鬼城「瘦馬のあはれ機嫌や秋高し」短冊
 村上鬼城「花ちるや耳ふつて馬のおとなしき」短冊
 渡辺水巴「何の木か梢そろへけり明の春」短冊
 渡辺水巴「土雛はむかし流人や作りけん」色紙
 原石鼎「いつも彼の孀なんばん畑に一重帯」短冊
 原石鼎「満ちしほにすでに灯つらね川開」短冊
 前田普羅「山桃の日かげと知らで通りけり」短冊
 西島麥南「柚味噌焚く閻浮檀金の焰哉」短冊
 西島麥南「夏山雨後炊煙人の生活を」短冊

宮武寒々「無明より無明へ漕げる?場かな」短冊
石原舟月「桃林の雨あし見えてふりにけり」短冊
中川末淵「媼が手に摘まれて草の萌ゆるなり」短冊
松村蒼石「桃の花いづくに霧の生れるる」短冊
松村蒼石「惜春あはあはと年とり過ぎぬ」短冊
高室呉龍「石垣のきはの落葉に火をつける」短冊
高室呉龍「蜂高く飛ぶ夕空に何もなし」短冊
高橋淡路女「螢火をとりおとしたる青さかな」短冊石原舟月「高汐の日の座をちかみ冬椿」短冊
柴田白葉女「山の雨やみ冬椿濃かりけり」短冊

【飯田龍太】

飯田龍太「紺紺春月おもく出でしかな」軸装
飯田龍太「夕焼けて夏山おのが場にそびゆ」軸装
飯田龍太「ゆく夏のいく山越えて夕日去る」短冊
飯田龍太「三伏の闇はるかより露のこゑ」軸装
飯田龍太「炎天のかすみをのぼる山の鳥」色紙
飯田龍太「動かざる嶺あればこそ大暑かな」色紙
飯田龍太「遠くまで海揺れてゐる大暑かな」原稿
飯田龍太「雲母の十五作家」原稿
飯田龍太「おくの細道雑感」原稿
飯田龍太「つばめ去る鶏鳴もまた糸のごと」軸装
飯田龍太「去るものは去りまた充ちて秋の空」軸装
飯田龍太「茸にはへばつつまじき故郷あり」色紙
飯田龍太「白雲のうしろはるけき小春かな」軸装
飯田龍太「白雲うしろはるけき小春かな」原稿
飯田龍太「三十歳のころ」原稿
飯田龍太「初秋の眺め」原稿
飯田龍太「『新編雲母句集』について」原稿
飯田龍太 貼り交ぜ屏風〈複製〉
飯田龍太「うすうすと紺のぼりたる師走空」色紙
飯田龍太「紙ひとり燃ゆ忘年の山平ら」軸装
飯田龍太「山々のはればねむる深雪かな」軸装
飯田龍太「枯れはてて濯ぐうしろは山ばかり」軸装
飯田龍太「白雲のうしろはるけき小春かな」色紙
飯田龍太「手より手に」句稿
飯田龍太「雪やみしばかりの京の日暮れつつ」原稿
飯田龍太「年暮るる庭師焚火の輪を解けば」原稿
写真パネル 甲府中学5年 1937(昭和12)年頃
写真パネル 百戸の谿口絵写真
「雲母」1951(昭和26)年6月「紺紺」巻頭号
飯田龍太『百戸の谿』1954(昭和29)年8月 書林新甲鳥
飯田龍太『童眸』1959(昭和34)年3月 角川書店
飯田龍太『麓の人』1965(昭和40)年11月 雲母社 雲母叢書第29篇
飯田龍太『忘音』1968(昭和43)年11月 牧羊社「現代俳句十五人集」第1巻
飯田龍太「一月の川一月の谷の中」軸装 1969(昭和44)年〈複製〉
「俳句」1969(昭和44)年2月号「明るい谷間」掲載
写真パネル 山廬裏手の竹林にて 昭和30年代後半 撮影 若林賢明
飯田龍太『春の道』1971(昭和46)年10月 牧羊社
写真パネル 山廬庭前にて 撮影 斉藤勝久 提供 角川学芸出版
飯田龍太『山の木』1975(昭和50)年4月30日 立風書房

飯田龍太『涼夜』1977（昭和52）年9月 五月書房和装本シリーズの1巻、限定400部
飯田龍太『今昔』1981（昭和56）年11月 立風書房 題簽 飯田龍太 篆刻 寺西健 装丁 前川直
飯田龍太『山の影』1985（昭和60）年7月 立風書房 題字 飯田龍太 装丁 前川直
飯田龍太使用の落款印
飯田龍太印譜
飯田龍太『遅速』1991（平成3）年12月 立風書房 装幀 菊地信義
「雲母」終刊号 1992（平成4）年8月
『新編雲母句集』1992（平成4）年10月10日
飯田龍太『紺の記憶』1994（平成6）年7月 角川書店 装画 船越保武
飯田龍太『遠い日のこと』1997（平成9）年6月 角川書店 装画 萩原英雄
飯田龍太愛用カメラ 二眼レフ（ミノルタ）
写真パネル 小黒坂の風景（村の女性・狐川上流）撮影 飯田龍太
愛用のパナマ帽
のむら清六 雲母表紙原画「桂林照月」額装
のむら清六「雲母」表紙原画「半月」額装
詫間正一「雲母」表紙原画「椿と禽」額装

第5室 山梨出身・ゆかりの作家と作品

前期展示 5月22日（金）～8月30日（日）

【ジャーナリズム】

徳富蘇峰

徳富蘇峰『烟霞勝遊記』上・下 1924（大正13）年 民友社
徳富蘇峰「推倒一世王智勇開拓萬古之心胸」軸装
藤谷みさを『蘇峰先生の人間像』1958（昭和33）年1月 明玄書房

池辺三山

池辺三山「新聞記者の地位」『山梨日日新聞』1888（明治21）年1月12日〈パネル〉

川合信水

川合信水『吾が体験の道』1925（大正14）年9月 生々社
「女学雑誌」第338号 1893（明治26）年2月「雑録」コピー

石橋湛山

『石橋湛山写真譜』1973（昭和48）年3月 東洋経済新報社

廣瀬千香

廣瀬千香『思ひ出雑多帖』1990（平成2）年7月 日本古書通信社
廣瀬千香「箸もつ筆もつたまさか針も」色紙
廣 千香『山中共古ノート』第1～3集 1973（昭和48）年6月～

川合 仁

川合澄男『回想・川合仁』1975（昭和50）年4月 川合仁刊行会
川合仁『私の知っている人達』1970（昭和45）年10月 藤書房

望月百合子

望月百合子『大陸に生きる』1941（昭和16）年5月 大和書店
中村星湖筆「望月百合子女史の歌集」色紙

矢崎千代二 画「望月百合子肖像」

望月百合子『限りない自由を生きて』1988（昭和63）年3月 ドメス出版

「女人芸術」大阪宣伝旅行 1928（昭和3）年 写真パネル

雨宮庸蔵

雨宮庸蔵『偲ぶ草』1988（昭和63）年11月 中央公論社

永井荷風 筆・画「昼間から錠さす門の落葉かな」色紙

十一谷義三郎 雨宮庸蔵宛書簡 1933（昭和8）年8月（年月推定）日不明

竹中 労

竹中労ほか「夢よ少年懐古浅草の灯よチャンバラ時よ」色紙

竹中労『ザ・ビートルズレポート』1982（昭和57）年6月 白夜叢書

竹中労『鞍馬天狗のおじさんは』1992（平成4）年8月 ちくま文庫

竹中労『仮面を剥ぐ』1983（昭和58）年2月 幸津出版

【小説・評論・随筆・翻訳ほか】

相田隆太郎

相田隆太郎「武田信玄」原稿

相田隆太郎『テクノクラシイ』1933（昭和8）年4月 新潮社

相田隆太郎『農民文学の諸問題』1949（昭和24）年4月 甲陽書房

和田芳恵

和田芳恵『接木の台』1974（昭和49）年9月 河出書房新社

和田芳恵「蓬生日記（一葉日記）」原稿

山田多賀市

山田多賀市『耕土』1940（昭和15）年3月 大観堂書店

「農民文学」創刊号 1951（昭和26）年9月 農民文化協会

写真パネル 45歳の時の山田多賀市

新田次郎

新田次郎「富士を守れ」原稿 複製

新田次郎『芙蓉の人』1971（昭和46）年5月 文藝春秋

写真パネル 新田次郎と上野晴信

石原文雄

「中部文学」創刊号 1940（昭和15）年4月

石原文雄『断崖の村』1946（昭和21）年7月 高須書房

のむら清六画 石原文雄肖像

石原文雄「青蛙高音にひびく仮り住居」短冊

藤巻宜城

「中央線」創刊号 1968（昭和43）年3月

「あぢさゐ」5月号 1922（大正11）年5月

「映象」第1輯 1925（大正14）年4月

中村鬼十郎

中村鬼十郎『傾斜地の村』1943（昭和18）年9月 アジア青年社

中村鬼十郎『慟哭の川』1976（昭和51）年10月 甲陽書房

熊王徳平

熊王徳平『いろは歌留多』1942（昭和17）年2月 第一芸文社
熊王徳平『富士川』1958（昭和33）年11月 出版書肆パトリア
熊王徳平「美るはしく生きたい希い鳥雲に」色紙

加賀美 実

加賀美実『畦』1984（昭和59）年4月 文化総合出版
加賀美実『恥辱の時代』1974（昭和49）年4月 文化総合出版

小林 実

小林実「皇居外苑」原稿
小林実『白い太陽』第一部・第二部 1961（昭和36）年3月 東京信友社
峡日文芸社主催「山梨文芸座談会」写真パネル 1935（昭和10）年7月14日

鳴山草平

鳴山草平「甲府市の自宅で」写真パネル 1937（昭和12）年春
「新青年」第20巻第5号 1939（昭和14）年4月
鳴山草平『カミナリ先生青春帖』1960（昭和35）年1月 同人社
鳴山草平「カミナリ（先生）青春帖 第六話－緑の吹く風の章」草稿

羽中田 誠

野間仁根『酔いどれ記者』挿絵原画
羽中田誠『酔いどれ記者』1953（昭和28）年12月 鱒書房

保坂義照

保坂義照『武田二十四将論』1944（昭和19）年2月 アジア青年社
保坂義照『愁風天目山』1952（昭和27）年9月 農村文化協会

小川正子

小川正子『小島の春』1939（昭和14）年4月改版 長崎書店

金子文子

金子文子『何が私をかうさせたか』1931（昭和6）年7月 春秋社
『金子ふみ子 全歌集 獄窓に想ふ』1987（昭和62）年12月 黒色戦線社

大町桂月

大町桂月「ふもとよりいたゞきまでも富士の根を背負ひてのぼる八ヶ嶽かな」扇面
大町桂月「夜をこめて落葉に雨のかゝりけり」短冊

野尻抱影

野尻抱影 小尾孝平宛葉書 1910（明治43）年5月19日〈複製〉
山口誓子・野尻抱影『星恋』1946（昭和21）年6月 鎌倉書房

平賀文男

平賀文男『日本南アルプス』1929（昭和4）年6月 博文館
「山と溪谷」第168号 1953（昭和28）年6月 山と溪谷社

寺田重雄

寺田重雄『甲州魚風土記』1980（昭和55）年12月 芸文社
「鶴 nue」終刊号（寺田重雄追悼号）1995（平成7）年

芦澤一洋

- 芦澤一洋 『バックパッキング入門』 1976（昭和51）年月 山と溪谷社
芦澤一洋 『自然とつきあう五十章』 1979（昭和54）年6月 森林書房
芦澤一洋 『フライフィッシング全書』 1983（昭和58）年 森林書房
芦澤一洋 『アウトドア・ものログ』 1985（昭和60）年8月 森林書房
芦澤一洋 『山女魚里の釣り』 1989（平成元）年2月 山と溪谷社
芦澤一洋 『アーヴィングを読んだ日』 1994（平成6）年11月 小沢書店
写真パネル 芦澤一洋「アメリカアイダホ州のヘンリーズフォークで」

山中共古

- 山中共古 『甲斐の落葉』 1926（大正15）年11月 郷土研究社

土橋里木

- 土橋里木 『山梨県の民話と伝説』 1979（昭和54）年7月 有峰書店
土橋里木 『山村夜譚』 1993（平成5）年6月 近代文芸社

大森義憲

- 大森義憲 『甲州年中行事』 1952（昭和27）年11月 山梨民俗の会
大森義憲 「折口信夫と」 写真パネル

中沢 厚

- 中沢厚 『つぶて』 1981（昭和56）年12月 法政大学出版局

浅川伯教

- 「白磁」創刊号 1922（大正11）年4月
浅川伯教 『釜山窯と対州釜』 1930（昭和5）年7月 彩壺会

浅川 巧

- 浅川巧 『朝鮮の膳』 1929（昭和4）年3月 工政会出版部

永峯秀樹

- 永峯秀樹 『暴夜物語』 第1編・第2編 1875（明治8）年2月、5月 山城屋

矢崎源九郎

- 矢崎源九郎訳 『アンデルセン童話名作集』 1955（昭和30）年3月 筑摩書房
矢崎源九郎 『これからの日本語』 1960（昭和35）年2月 三笠書房

【童話・童謡】

大村主計

- 大村主計 「花かげ」色紙
大村主計 『ばあやのお里』 1932（昭和7）年1月 児童芸術社
「楽しい童謡集」レコード盤 1959（昭和34）年 コロムビアレコード

米山愛紫

- 米山愛紫 『春の停車場』 1942（昭和17）年6月 文昭社
「チチノキ」第19冊 1935（昭和10）年5月

小野政方

- 小野政方 『りんごののぞみ』 1928（昭和3）年10月 研究社
小野政方 『愛児読本』 ひらかなの巻 1934（昭和9）年10月 厚生閣太田黒克彦

太田黒克彦

太田黒克彦「マスの旅」原稿

太田黒克彦『マスの大旅行』1956（昭和31）年9月 大日本雄辨会講談社

山北しげり

山北しげり『小人の踊り』1936（昭和11）年11月 宏文堂書店

「シャボン玉」1937（昭和12）年2月

塩沢 清

塩沢清『ガキ大将行進曲』1977（昭和52）年4月 旺文社

塩沢清『ぼくもあの子も転校生』1987（昭和62）年8月 ポプラ社

塩沢清『もうひとりのわたしみつけた～理香とチエリの物語～』1992（平成4）年5月 ポプラ社

【戯曲・脚本】

小林一三

小林一三『歌劇十曲』1917（大正6）年10月 玄文社

小林一三 雨宮庸蔵宛葉書 1937（昭和12）年2月10日

小林一三『曾根崎艶話』1948（昭和23）年10月 芙蓉書房

写真パネル「宝塚歌劇40周年記念」

河野義博

中村吉蔵・河野義博『近代演劇史論』1921（大正10）年12月 日本評論社

「演劇」創刊号 1932（昭和7）年4月

「河野義博作品の舞台写真」写真パネル

大木直太郎

「月水金」6 1月号 1937（昭和12）年1月

吉野源三郎 脚色 大木直太郎 脚色『君たちはどう生きるか』1978（昭和53）年5月9刷 未来社

大木直太郎『大木直太郎戯曲選集』1998（平成10）年5月 陽光台OAプラザ

菊島隆三

菊島隆三・黒沢明共同脚本「用心棒」第2稿台本

菊島隆三・黒沢明・小国英雄共同脚本「椿三十郎」台本

「からっ風野郎」台本 1960（昭和35）年 大映東京撮影所製作

小柳津浩

小柳津浩『学校演劇論』1953（昭和28）年11月 甲陽書房

小柳津浩『青年演劇脚本集』1958（昭和33）年7月 甲陽書房

『小柳津浩脚本集 二発の銃声』1986（昭和61）年9月 山梨舞台芸術センター

竹内勇太郎

竹内勇太郎「赤帽母ちゃん」原稿

竹内勇太郎『山本勘助』第1巻 1985（昭和60）年8月 学習研究社

後期 10月3日(土)～3月7日(日)

【詩】

青柳瑞穂

青柳瑞穂『睡眠』1931(昭和6)年1月 第一書房
青柳瑞穂「玉堂の花」原稿

尾崎喜八

尾崎喜八『山の絵本』1935(昭和10)年7月 朋文堂 表紙 片山敏彦
尾崎喜八「遠い日の山小屋」原稿(複製)

金子光晴

金子光晴「似顔絵の似たる日秋の足の冷」色紙
金子光晴『こがね蟲』1923(大正12)年12月 新潮社

杉原邦太郎

杉原邦太郎『火山』1930(昭和5)年2月 機山閣書店
杉原邦太郎「昨日は靡く翠であった」色紙
「山脈」創刊号 1930(昭和5)年8月

内田義廣

内田義廣「街」原稿
内田義廣『花の群落』1976(昭和51)年4月 日本未来派の会

上野頼三郎

上野頼三郎『村の生活』1930(昭和5)年10月 村落社
上野頼三「犬のように」詩稿

山口啓一

山口啓一『石炭と花』1930(昭和5)年5月 機山閣書店

中室員重

中室員重『兵隊詩集』1931(昭和6)年8月 海図社

米澤順子

米澤順子「額のある静物」油彩 昭和初期
米澤順子『聖水盤』1919(大正8)年11月 東京堂書房

米倉寿仁

米倉寿仁『透明ナ歲月』1937(昭和12)年4月 西東書林
「甲府派」創刊号 1954(昭和29)年11月

宮田柁夫

宮田柁夫『仮面』1954(昭和29)年10月 甲府派発行所
宮田柁夫「オパールの変転ルビーの紋章」色紙

曾根崎保太郎

曾根崎保太郎『灰色の体質』1954(昭和29)年11月 甲府派発行所
曾根崎保太郎「酩酊が抱くフェニックスの卵黄」色紙
「未踏」創刊号 1950(昭和25)年3月

野澤 一

野澤一「四十一歳三月三日夜作」未定稿
「童子行」1号 1937（昭和12）年5月

津嘉山一穂

津嘉山一穂「未刊詩集」草稿
「リアン」創刊号 1929（昭和4）年3月

鈴木久夫

鈴木久夫「断崖」原稿
鈴木久夫『断崖』1930（昭和5）年11月 民謡レビュー社

鈴木祐之

鈴木祐之『わたしのヒロシマ』1969（昭和44）年3月 甲陽書房
鈴木祐之「心の傾きに」原稿

小林富司夫

小林富司夫『きいろい炎』1949（昭和24）年5月 中部文学社
小林富司夫「地は落葉線路の枕木を一本一本渡ってゆくと満月がいたぼくは冬の満月をすぎた」色紙

土橋治重

土橋治重 詩集『花』1953（昭和28）年1月 日本未来派発行所
「風」129（終刊）号 土橋治重追悼号 1993（平成5）年12月
土橋治重「甲州は颯爽と山々が肌を脱いでいた夜は深々と星がかがやいた」色紙

中込純次

中込純次「詩集母と恋人」原稿「山茶花」
中込純次『母と恋人』1929（昭和4）年1月 国風閣

一瀬 稔

一瀬稔 筆 のむら清六 画「裏山で」軸装
一瀬稔 詩集『山鶏』1940（昭和15）年10月 中部文学社

【短歌】

伊藤生更

「美知思波」創刊号 1935（昭和10）年6月
伊藤生更『山雲』1953（昭和28）年10月 美知思波発行所
伊藤生更「北の方より駒鳳凰農鳥と我が目を移す雪の高山」軸装

中村美穂

「アララギ」第18巻第5号 1925（大正14）年5月
中村美穂『佛顔』1931（昭和6）年9月 みづがき社

相澤貫一

相澤貫一『石水集』1971（昭和46）年6月 発行人 古谷幸江

若尾隣平

若尾隣平『若尾隣平遺稿集』1971（昭和46）年1月 発行人 若尾朗
若尾隣平 歌帖「顕覆帖」

中大路佳郷

中大路佳郷「われ生れし虎年なれば病める身に渴を入れつつ初陽あみをり」短冊
中大路佳郷『華鬘』1987（昭和62）年2月 須曾乃短歌会

伊藤映二

伊藤映二『揺籃時代』1926（昭和2）年10月 上田書店
伊藤映二「西行はどこら辺りで笠上げて見たであろうか赤い富士」色紙

飯野真澄

『飯野真澄歌集』1971（昭和46）年8月 白玉書房
飯野真澄「広き田の南寄りに黒牛は立ちて居るなり代搔を止めて」色紙

青木辰雄

青木辰雄「六階の食堂にゐてやややに茜うする時を過ぎしぬ」短冊
『青木辰雄歌集』1988（昭和63）年8月
「山梨歌人」創刊号 1946（昭和21）年8月

相澤 正

『相澤正歌集』1954（昭和29）年1月 白玉書房

許山茂隆

許山茂隆「病院に歌のメモ帖持ちゆけどけふも空白のまゝ持ちかへる」色紙
許山茂隆『郷園』1947（昭和22）年7月 国民文学社

鈴木 孝

鈴木孝『丘のある街』1966（昭和42）年10月 甲陽書房
「樹海」創刊号 1954（昭和29）年7月

佐野四郎

佐野四郎『杉の花粉』1934（昭和9）年7月 朝日書房
佐野四郎「地に生くるなべてをいたはる如くにもいわし雲しづかにそらおほひくる」軸装

渋谷 俊

渋谷俊『華鬘』1939（昭和14）年4月 柳正堂書店
与謝野晶子「序に代へて」歌稿（渋谷俊『華鬘』所収）

渋谷玻璃子

渋谷玻璃子『無礙の光』1929（昭和4）年12月 柳正堂書店

茂手木みさを

茂手木みさを『一隅の薔薇』1930（昭和5）年4月 朝日書房

【俳句】

今村霞外

今村霞外『法燈』1954（昭和29）年8月 私家版
今村霞外「初汐にのりて美しすて扇」短冊

五味洒蝶

五味洒蝶『洒蝶句集』1964（昭和39）年9月 雲母社
五味洒蝶「寒曝をみる人まれに石叩」短冊

辻 路村

辻路村『樹影』1973（昭和48）年7月 雲母社
辻路村「冬の雲その白きゆえ弧なりけり」色紙

榎本虎山

榎本虎山『餘花』1972（昭和47）年1月 雲母社
榎本虎山「蛩みていのち静かに露を染む」短冊

角田雪弥

角田雪弥『畦火』1987（昭和62）年7月 竹頭書房
角田雪弥「竹の葉によすがのひかり冬の水」短冊

山田岫雲

山田岫雲『朴の花』1975（昭和50）年11月 発行 山田武雄
山田岫雲「冬雲に親子遠しや山畑」一枚物

柏木白雨

柏木白雨『白雨句集』1977（昭和52）年7月 若葉社
柏木白雨「新蕎麦会句会記」1942（昭和17）年8月22日

鈴木青処

山口青邨選「稿本青処句集」

堤 俳一佳

堤俳一佳『俳一佳句集』1951（昭和26）年4月 裸子発行所
堤俳一佳「電話より文に情あり後の月」短冊

加賀美子麓

加賀美子麓『火度』1987（昭和62）年8月 牧羊社
「麓」創刊号 1990（平成2）年3月
加賀美子麓「川千鳥月より鳴いて落ちにけり」色紙

赤堀五百里

赤堀五百里『萬里』1995（平成7）年5月 読売・日本テレビ文化センター
赤堀五百里「淵明も李白も来よや屠蘇酌まむ」短冊

石原八束

石原八束『秋風琴』1955（昭和30）年8月 書肆ユリイカ 題簽 石原舟月
石原八束「死は春の空の渚に遊ぶべし」色紙
「秋」創刊号 1961（昭和36）年10月

新免一五坊

新免一五坊「冬日とははうふつとしてある思ひ」短冊

【川柳】

篠原春雨

篠原春雨「三階の一間に小僧病んでゐる」色紙

中沢春雨

中沢春雨「団十郎日本一の目玉なり」短冊

『騒愁 中沢春雨川柳句集』1967（昭和42）年11月 甲陽書房

雨宮八重夫

雨宮八重夫『遍路美知』1977（昭和52）年9月 サンケイ新聞社

雨宮八重夫「一本の道あり明日へひた行かな」色紙

田中浮世亭

田中浮世亭「浮世亭句抄」

【漢詩】

香川香南

香川香南『香南詩鈔』1926（大正15）年11月

村松蘆洲

村松蘆洲「送兒定孝之瑞西」漢詩色紙

村松蘆洲『蘆洲詩集』1980（昭和55）年5月 発行人 村松定孝

写真パネル 蘆洲が創建に関わった山縣神社（甲斐市）

笠井南邨

笠井南邨 撰 土屋竹雨 評『翰墨縁』詩稿・印譜